

国語 <解答と解説> 中1・8月

解答	配点
問一 (ア) a 3 b 1 c 2 d 4 (イ) a 3 b 2 c 2 d 4 (ウ) 4	問一 (ウ) 5点×1=5点 他各2点×8=16点 計21点
問二 (ア) 2 (イ) 1 (ウ) 1 (エ) 4 (オ) 4 (カ) 3	問二 各5点×6=30点
問三 (ア) 3 (イ) 2 (ウ) 4 (エ) 3 (オ) 4 (カ) 1 (キ) 2 (ク) 1	問三 (ア)～(ウ)各4点×3=12点 他各5点×5=25点 計37点
問四 (ア) 4 (イ) (例) (失敗は避けるより上手に付き合うほうがよく,) 失敗や誤った意見をおそれずに (行動することで, そこから学ぶことが成長や発展につながる大事な過程であるといえるとわかった。) (14字)	問四 (ア)4点, (イ)8点 計12点

問一 漢字の読み, 熟語, 慣用句

(ア) aの「土俵」は、土を盛って作る相撲の競技場のことですが、「相手の土俵」という言い方をするときには「相手が有利な状況や得意な分野」という意味で使われます。bの「善処」は、「適切に処置する」という意味です。cの「皮肉」は、「遠回しに言う意地の悪い言葉」という意味です。dの「率」の音読みは「リツ」で、「確率」などの熟語があります。

(イ) a～d, および1～4の各文中の——線を含めたカタカナを漢字で書くと、以下のとおりになります。

- a: 加盟 1: 悲鳴 2: 迷路 3: 同盟 4: 命中  
 b: 受領 1: 良好 2: 本領 3: 漁師 4: 重量  
 c: 退散 1: 包帯 2: 退治 3: 隊列 4: 舞台  
 d: 栄える 1: 勢力 2: 精密 3: 英断 4: 栄光

(ウ) 「あぶはち取らず」は、二つのものを同時に取ろうとして結局は両方とも得られないということで、欲を出しすぎると失敗するという意味のことわざです。同様の意味のことわざに「二兎を追う者は一兎をも得ず」があります。

問二 文学的文章の読解

(ア) ——線1の前後で、「直」は「よくぞ聞いてくれました」とばかりに声をあげて、「めちゃくちゃおもしろかった」と、eスポーツの魅力について熱心に語っています。このことから、「直」は「利斗」の質問を喜んで、待っていたかのように勢いよく答えていることがわかります。したがって、2が正解です。1は、「クイズ研究会をやめる理由が『冴』にあると言ったことを後悔していたので」という気持ちが本文からは読み取れず、「直」のeスポーツの魅力を語りたくて仕方がない積極的な様子と合わないのが、誤りです。3は、「親しい仲間と別れを告げるのはつらい」という気持ちが本文からは読み取れず、「直」は前向きにeスポーツについて語っているので、誤りです。4は、「うんざりしており」「冷たく強い口調で」が、「直」の明るく積極的な態度と合わないのが、誤りです。

(イ) ——線2の直前に、「利斗」の「eスポーツならいろんな要素のゲームを選択できるし、刺激もあるし派手」という言葉があり、テーブルの上には「クイズの問題集とノートと筆記用具」があつて、「とても派手とは言いにくい風景だ」と述べられています。このことから、「利斗」たちは、自分たちのクイズの勉強とeスポーツを比べて、確かに地味に見えるかもしれないと感じていることがわかります。したがって、1が正解です。2は、「これまでの努力の成果が誇らしくなっている」という肯定的な気持ちが、「とても派手とは言いにくい風景だ」という表現とは合わないのが、誤りです。3は、「気持ちを奮い立たせている」という積極的な様子はこの時点ではまだ描かれていないのが、誤りです。4は、「途方に暮れている」ほどの深刻な様子は、この場面では表現されていないのが、誤りです。

(ウ) ——線3の直後に「小さなころからクイズやなぞなぞが大好きだったからだ」とあります。このことから、冴は新しくできるクイズのクラブに大きな期待を持ち、説明会に参加することを心から楽しみにして「はりきって」行ったことがわかります。したがって、1が正解です。2は、「どんな内容なのかよくわからないので、とりあえず説明会に行ってみよう」という消極的な態度が、「はりきって行ってみよう」という積極的な様子と合わないのが、誤りです。3は、「学校での自分の評価が上がり、友だちが増えるのではないかと期待して」という動機が本文には述べられていないのが、誤りです。冴は「小さなころからクイズやなぞなぞが大好きだった」ことが理由なのです。4は、「利斗がクイズのクラブに入ると予想して」「負けないように自分も入らなければならない」と決意してい

る」が本文と合わないので、誤りです。本文では、説明会に行った冴が「そこにやってきた原沢利斗を見て、冴はにかっと笑った」「これなら期待できると喜んだ」とあり、「利斗」がくることを予想してはいなかったことがわかりますし、対抗心を燃やしているのではなく、喜んでいきます。

- (エ) —線4の前で、「利斗」は「二人じゃ試合に出られないよね」と言い、「確かめる利斗の目は、小刻みに泳いでいた」とあります。このことから、「利斗」はクラブに対して不安を感じていることがわかります。その「利斗」の弱気な様子を見た「冴」は「りっくんのクイズ愛は本物だよ」とつめよっています。「冴」は、「直」がクラブをやめたことに対して「本村くんのクイズ愛はその程度だったの?」と言っているのです。「りっくんのクイズ愛は本物だよ」という言葉は、「クイズ愛」が「本物」ならクラブをやめるようなことはしないはずだと「利斗」に確認しようとしているのだとわかります。「冴」が「利斗」の影をふんだのは、「利斗」の弱気に流れかけている心を押さえつけて、クラブを続けるという現在最も肝心な気持ちを確認するための行動ということになります。したがって、4が正解です。1は、「怒り」「いら立ち」といった感情は読み取れないので、誤りです。「冴」は感情的に怒りを発散しているのではなく、ただ「利斗」の心のゆらぎを止めようとしているのです。2は、「注意を引こうとしている」のではなく、弱気な発言に流れかけた話題を核心に戻そうとした行動なので、誤りです。3は、「優しく励まそうとしている」が、このあとの「りっくんのクイズ愛は本物だよ」と「利斗」につめよるという「冴」の行動とは合わないなので、誤りです。
- (オ) —線5のあとに、「利斗」は「まあ新学期になったら、だれかが入ってくれるかもね」と言っており、その直後に「冴」が「そんなのんきな」と反応しています。このことから、「利斗」は深刻な状況であるにもかかわらず、「気楽な感じで」楽観的な様子をしていることがわかります。したがって、4が正解です。1は、「落ち込んでいる『冴』を励ますために」「元気づけよう」とが、「冴」に「のんき」と感じさせている「利斗」の様子と合わないなので、誤りです。2は、「自分もクラブをやめたいと思っており」がここでの「利斗」の態度やあとの「はっとしたような顔」をして「eスポーツのクラブができればやばいよね」という発言と合わないなので、誤りです。3は、「自分たちのクラブには魅力があることを信じている」という気持ちは読み取れないので、誤りです。
- (カ) 文章について述べた文の正誤を判断する問題です。このような問題は、それぞれの選択肢について、誤りだと考えられる部分を、本文の内容と照らし合わせながら判断するようにしましょう。この文章は、「直」がクイズ研究会をやめると言い出した場面から始まり、「冴」がその言葉に驚き戸惑いながらも、クイズ研究会結成時のことを回想し、最後にクラブを存続させるために新しいメンバーを探そうと決意するまでが描かれています。全体を通して「冴」の視点から物語が展開しており、「冴」の心情が中心に据えられています。したがって、3が正解です。1は、「深刻で重苦しい雰囲気の中で描かれている」が、会話を中心としたテンポのよい本文と合わないなので、誤りです。2は、「クラブ活動における人間関係の難しさ」や「困難を乗り越えて未来へ向かって進んでいこうとする」という「利斗」の様子は本文で書かれておらず、『冴』と『利斗』、そして『直』の視点を切り換えながら描かれている」が、一貫して「冴」の視点から描かれている本文と合わないなので、誤りです。4は、「クラブ活動をあきらめかけていた」「ライバルとの再戦という目標を見つけ」という内容が本文とは合わないなので、誤りです。「冴」は最初からクラブを続けようとしており、ライバルとの再戦は以前からの目標です。

### 問三 説明的文章の読解

- (ア) は、直前の「まず本を捨てることから始めなければならない」という内容と、直後の「本を捨てるということは、ほとんど不可能に近い作業だ」という内容の関係性から、逆接の接続詞「ところが」や「しかし」がふさわしいと考えられます。は、前の部分にある「新書を一冊……すぐに終わってしまう」という内容と、直後の「読み終えた本は、座席に残して降りる」という内容の関係性から、並列・累加の接続語「それから」や「そして」がふさわしいと考えられます。したがって、3が正解です。
- (イ) 「肩身を狭くする」で、「肩身が狭い」(世間・周囲に対して引け目や申し訳なさを感じる)思いをするという意味の慣用句から来ている言葉になるので、4が正解です。
- (ウ) 係り受け(修飾語)の問題です。係る部分は、文の意味が変わらない範囲で受ける部分の直前に移動することができ、「本を／なんとか／捨てるように／決心して／作業にかかったのだが」と並べかえることができるので、2が正解となります。「決心して」や「作業にかかったのだが」の直前にも移動することができそうですが、すぐあとに「なんとかして大胆に捨てるべきだ」とあるように、ここでは「なんとか捨てるように」と考えているところなので、「決心して」や「作業にかかったのだが」の直前に移動すると、文の意味が変わるので、誤りです。
- (エ) —線1のあとに「その日いちにち、結局、私はなすこともなく終わってしまったのだ」とあり、また、前の部分に「ドストエフスキーの著作よりも、それについて書かれた本の方が圧倒的に多いことに気づいて愕然とした」

とあることから、石堂氏の基準は一見明快ですが、実際には解説書の方が圧倒的に多く、さらに著者本人の執筆でなくとも捨てがたい本が存在することが、名言を実行できない理由だと読み取れます。したがって、3が正解です。1は、「ドストエフスキーの著作などは、それについて書かれた解説書がなければ内容を理解することが不可能だ」とありますが、筆者は解説書が必要だから捨てられないとは述べていないので、誤りです。2は、「本を捨てるという行為自体が、本を大切にするという価値観に反しており」という内容は本文の後半部分で触れられていますが、ここでは石堂氏の基準を実際に適用しようとした際の具体的な困難さ(解説書が多い、著者本人の著作でなくても捨てがたい本がある)が理由として述べられているので、誤りです。4は、「ドストエフスキーの著作そのものが予想以上に少ない」という内容は本文に書かれておらず、著作が少ないことではなく、解説書が多いことが問題とされているので、誤りです。

- (オ) —線3のあとに「忘れてしまうような内容は、もともと縁がなかったのだと諦める」「一冊の本の中の一行が頭に残るのは、なにげなく読んだ言葉が、錐をもむようにこちらの魂に突き刺さってくるときである」「そういう言葉は、忘れようとしても忘れられるものではない」「赤線を引いたり、メモをとったり、いろんなことをしても忘れるものは忘れる」「本当に大事なことは、どんなに忘れようと頑張っても頭にこびりつく」「そういうものにこそ価値がある」と同趣旨の内容が何度も繰り返して述べられていることから、メモなどの手段を用いなくても、魂に突き刺さるような言葉は自然と記憶に残り、そのような忘れられない一行こそが真に価値があると読み取れます。したがって、4が正解です。1は、「一冊の本を熟読して得られる一行の重みの方が……何百冊もの蔵書よりも知的な満足度が高い」とありますが、「知的な満足度」については本文に書かれていません。筆者は「魂に突き刺さる」という表現で、感情的・精神的な衝撃について述べているので、誤りです。2は、「新幹線で読み終えた本を持ち帰らずに座席に残すような自由な読書が可能になる」という内容は、本文の後半で触れられていますが、—線3で筆者が「充分」と述べる直接の理由となるような重要な内容ではありません。—線3の理由は、魂に突き刺さる言葉の重要性にあるので、誤りです。3は、「本はあくまでも思考の道具」にあたる内容は本文に書かれていますが、「内容の大部分を忘れたとしても、自分を支える柱となる一行さえ見つければ読書の目的は達成された」という「読書の目的」については述べられておらず、目的達成という観点ではないので、誤りです。
- (カ) ここまでの本文に、「実際に捨てなくとも、三冊を選びだすというその作業に挑戦してみられるだけでも、きっと得るところが大きいような気がする」「本当に必要なのは、たくさんの本を……本棚に並べておくことだろうか」とあることから、「山のような蔵書に埋もれて暮す」のをやめようとしてみる作業を通じて、「本当に必要」なものが何であるかを見つめ直す機会になると読み取れます。したがって、1が正解です。2は、「これまで読んできた本の内容を振り返り、知識を体系的に整理できる」とありますが、筆者は本を選ぶ作業が「今の私たち自身の本質を最もよく表現している」と述べており、知識の体系的整理について述べているのではないので、誤りです。3は、「物に執着しない精神的な自由を獲得し、より豊かな生活を送れるようになる」という内容は本文に書かれていません。筆者は「山のような蔵書に埋もれて暮すのも、三冊の本だけを枕もとに置いて生きるのも、それはその人の勝手である。どちらがいいというわけではない」と述べており、精神的な自由や豊かな生活を主張しているわけではないので、誤りです。4は、「読書の質を高め、今後どのような本を読むべきかの指針を得られる」とありますが、筆者は今後の読書の指針について述べているのではないので、誤りです。
- (キ) 本文を通して筆者は、「本当に必要なのは、たくさんの本を次つぎと読み、それを本棚に並べておくことだろうか」と問いかけ、「一冊の本を読んで、いやでも頭の中に残る一行があれば、それで充分」「なにげなく読んだ言葉が、錐をもむようにこちらの魂に突き刺さってくるとき」「そういう言葉は、忘れようとしても忘れられるものではない」「そういうものにこそ価値がある」のように述べています。また、「読み終えた本は、座席に残して降りる」という行動からも、本そのものを所有することよりも、心に残る言葉との出会いに価値を見出していることが読み取れます。したがって、2が正解です。1は、「読んだ本を保存しておくことでいつでも必要な情報を取り出せる状態にしておくべき」という内容が、本文の「その本を、わざわざ保存しておく必要はない」「読み終えた本は、座席に残して降りる」という筆者の考えと反対なので、誤りです。3は、「厳選した少数の本を繰り返し読むことで思想や人格を深めていくべき」という内容が本文に書かれていません。筆者は「究極の三冊」を選ぶことの意義には触れていますが、それを繰り返し読むべきだとは述べていないので、誤りです。4は、「多くの本に触れて幅広い知識を獲得することが重要」という内容が、「本当に必要なのは、たくさんの本を次つぎと読み、それを本棚に並べておくことだろうか」という筆者の問いかけと矛盾するので、誤りです。筆者は量より質、つまり心に残る一行との出会いを重視しています。
- (ク) 文章について述べた文の正誤を判断する問題です。小説の場合と同じく、それぞれの選択肢について、誤りだと考えられる部分を、本文の内容と照らし合わせながら判断するようにしましょう。本文は、サントペテルブルク

での決心から始まり、実際に本を捨てようとして混乱に陥った経験、石堂淑朗氏の基準(他者の基準)を知ってもなお整理できなかった困難、そして筆者自身の考え(本を保存する必要はない、一行残れば充分、本は道具である)へと展開し、最後に「一度、この本を残すか、捨てるか、と、迷ってみることは決して悪いことではなさそうだと、本との向き合い方について論じています。この構成から、1が正解です。2は、「本を読み捨てにする現代の読書スタイルの有効性を強調することで、本に関する古い価値観からの脱却を論じている」という内容が本文と合いません。筆者は「山のような蔵書に埋もれて暮すのも、三冊の本だけを枕もとに置いて生きるのも、それはその人の勝手である。どちらがいいというわけではない」と述べており、古い価値観からの脱却を主張しているわけではないので、誤りです。3は、「古典と解説書のどちらを優先すべきなのかという問題を論理的に整理した上で」という内容が本文と合いません。筆者は石堂氏の基準を紹介しますが、結局「なすこともなく終ってしまった」のであり、問題を論理的に整理できていないので、誤りです。また、「親の持つ感覚が現代の読書観に与えている影響について批判的に論じている」という内容も本文にはありません。4は、「本の内容を忘れないための具体的なメモ術や読書法を提案して、読者が効率的に知識を吸収するための指針を論じている」という内容が本文と正反対です。筆者は「赤線を引いたり、メモをとったり、いろんなことをしても忘れるものは忘れる」と述べており、メモ術を提案しているわけではないので、誤りです。

#### 問四 資料を含む文の読解と記述

- (7)  I には文章1,  II には文章2についてKさんがまとめた内容が入ります。 I は、文章1から「失敗と上手に付き合う」ことが「下手なひと」の場合を探すと、「失敗するかもしれないリスクをひたすら避けるので、同時に成功するチャンスも逃してしまいます」「実際に大きな失敗が起きてしまったときには、回復する方法もわからず、大きなダメージを受けることとなります」とあるので、1・3・4のどれかが入ります。 II は、文章2にある討論において有効な意見についての内容ですから、【Kさんのメモ】の「正しいとわかっていることは討論の必要がない」に続く内容を探します。「正しいかどうか、あやしい意見をのべてこそ、討論に値する」「たとえ誤った意見を言って失敗したとしても、その経験が次の考えや新しい発想につながる」とあるので、「正しいか誤りかわからない意見」という2か、「誤っているかもしれない意見」という4が入ります。したがって、 I と  II の両方を満たす4が正解です。
- (イ) 【Kさんのまとめ】で、文章1は「失敗と上手に付き合えば、失敗を避けるよりも大きく飛躍できる」、文章2は「学問を発展させたのは、正しい意見ではなく、誤った意見のほうだ」という内容が述べられているので、この二つをもとにしてまとめます。「失敗」「誤った意見」という二つの指定語句がこれらと関係する形で使われている部分を探すと、文章1では「失敗するかもしれないリスクをひたすら避ける」ことが否定されていることと文章2の「たとえ誤った意見を言って失敗したとしても、その経験が次の考えや新しい発想につながる。だから失敗をおそれて何も言わないより、思いついたことを発言することが大切」が見つかるので、これらを用いて指定の文字数に収まるようにまとめましょう。
- ※誤字、脱字などがある場合は、その数にかかわらず2点減点となります。また、表現に問題があつて内容が正答の趣旨から外れているが、許容できると考えられる場合も2点減点となります。